

地方部への移住者にみる田舎暮らしの魅力と移住支援の取り組み ～鳥取県日南町を事例として～

八千代エンジニアリング株式会社 正会員○橋本 亮
八千代エンジニアリング株式会社 正会員 神永 希
国土技術政策総合研究所 正会員 大橋幸子
国土技術政策総合研究所 正会員 湯原麻子
八千代エンジニアリング株式会社 正会員 高森秀司

1. はじめに

国民の価値観の多様化に伴い、多様な働き方、住まい方が可能な社会が求められている。そのような状況の中、好条件の雇用や賃金等のための都市部への人口集中がみられるものの、一部において、経済的な理由によらない働き方を求めようとする動きがひろがりを見せている。本研究では、地方部への移住行動に着目し、鳥取県日南町に実際に移住された方々へのインタビューにより、移住行動に対する満足度等について調査を行った。本稿では、調査結果のうち、移住に関する特徴的な意見等に関するとりまとめと考察を行う。

2. 対象地域の概要

(1) 日南町の地勢

鳥取県日南町は、中国山地のほぼ中央部で、鳥取県の西端に位置している。町の南部には中国山地が、北部にはなだらかな準平野台地が広がっている。町の約 90%は森林であり、標高 280m～600m の間に大部分の集落と耕地が集まっている。車では、米子市まで約 45 分、中国自動車道新見 IC まで約 35 分、米子自動車道江府 IC までは約 30 分である。また、鉄道では、米子から生山駅まで約 60 分、岡山から約 90 分である（図 1）。



図 1 日南町の位置

(2) 日南町の社会特性

町の人口は、平成 22 年時点で 5,722 人であり、昭和 35 年 (15,286 人) 以降、減少傾向が続いている。また、高齢化率 (65 歳以上人口の割合) は、平成 17 年で 44.9%であり、鳥取県内で最も高い値となっている (鳥取県全体では 24.1%)。 (図 2)。

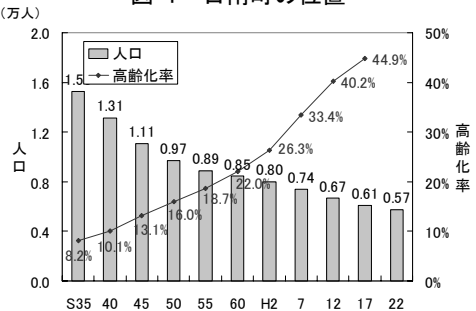


図 2 人口と高齢化率の推移

就業者数は、昭和 35 年以降減少しており、特に第一次産業就業者数の衰退が著しく、昭和 35 年時点での 5,385 人が、昭和 60 年に 2,110 人、平成 17 年では 1,059 人と、ここ 20 年でも半減している。平成 19 年に木材加工販売組織の株式会社オロチが操業を開始するなど、町を挙げて産業育成に取り組んでいる。

3. 対象地域における移住の取組みと経緯

日南町では、平成 14 年に「日南町いきいき定住促進条例」を制定、施行、また、平成 21 年には日南町農林業研修生制度が開始しており、地域での定住、地域外からの移住支援に積極的に取り組んでいる。

表 1 定住促進に関する取組みの概要

制度	事業名	時期	取組み内容
日南町いきいき定住促進条例	結婚祝金 (3 万円)	平成 18 年～	夫婦とも定住の意志のある人が結婚した場合
	出産祝金 (2 万円)	平成 18 年～	定住の意志のある人が出産し、届出が受理されたとき、第 1 子から対象。
	定住奨励金 (10 万円)	平成 18 年～	定住の意志のある町内に居住する新規卒業者、又は本町に転入した 50 歳未満の者が、町内又は通勤可能な町外の事業所等に就職して 3 年を経過したとき。
	住宅等補助金 (30 万円以内)	平成 18 年～	上記の奨励金等に該当する (した) 人で、その事由に沿った住宅の改修、取得を行った場合、事業費の 1/10 で最高 30 万円以内。
日南町農林業研修生制度	就農基盤整備事業	平成 22 年～	新規就農時 (5 年間限定) に必要な機械、施設を JA が貸与、又は認定就農者が整備 (2,000 万円限度/月、県 1/3・町 1/6)
	農地賃貸料助成事業	平成 23 年～	新規就農者が、農地を借り入れて就農する場合、農地の賃貸料を就農から 5 年間助成 (2000,000 円限度/年、県 1/2・町 1/2)
空き家情報活用制度	—	平成 18 年～	空き家情報の収集と登録を行いデータベース化、定住希望者に空き家の斡旋や、公営住宅情報 (町内の町営住宅・県営住宅の空き家情報) を紹介

日南町 HP、日南町役場ヒアリングより

キーワード：地方移住、地域資源、社会貢献、若者の職業観、定住促進

連絡先：〒540-0001 大阪府大阪市中央区城見 1-4-70 八千代エンジニアリング株式会社大阪支店 TEL 06-6945-9215

4. 移住者へのインタビュー

表 2 調査項目

(1) インタビュー調査の実施

日南町役場の協力により、実際に移住した方にインタビューを行った。調査時期は、平成 22 年 10 月である。協力者は、20 代 2 名、30 代 4 名、40 代 2 名、50 代 1 名、60 代 1 名、70 代 1 名の計 11 名である。

(2) インタビューでの特徴的な意見

インタビューにおける調査項目を表 2 に示す。その

うち、「移住の検討経緯」、「移住後に感じた日南町の長所」等について、それぞれの主な意見等を抽出・整理した。結果を表 3 に示す。

属性	性別、年齢、職業、移住時期、移住時の年齢、居住地（移住前後）、自動車の運転の可否
移住関連	・移住の理由（目的・きっかけ） ・移住先（現在地）の魅力 ・移住先候補として検討した他地域の有無
生活環境	・生活を営む上で重要だと考えている価値観（移住検討前、検討中、移住後） ・生活環境として必須と考える施設（移住前・現在） ・施設までのアクセスの許容時間

表 3 移住者インタビューにおける特徴的な意見

分類	主な意見 ■：全体的な傾向 ・：特徴的な意見
移住の検討経緯	■移住を決めた背景として、林業や農業への興味や町立病院の先進的な取り組みへの関心など、働く場所として移住してきた人が多い。また、日南町役場の移住支援の取り組みを評価する声が多い。 ・やりたい職業が日南町で募集されていたので応募し、採用され移り住んだ。 ・医療分野の先進的な取り組みに興味を持ち、そこで働きたいと思った。 ・農業研修など、外からの受け入れに町が積極的でサポートが良かった。 ・移住には、一番やりたいこと以外の条件（例えば所得等）は優先度を下げる決心が重要。 ・日南町の取り組みを新聞で知った。役場の人々が若くて積極的。前に進もうという意識がよい。
移住後に感じた日南町の長所	■町の住民の人間性がよいとする意見が多い。 ・若い人を中心に、高齢者も元気である。 ・自分に関わってくれた町の人たちとのつながりを実感して、長く住み続けることを決心した。 ・子育ての上では、都会よりも地方の治安がよく安心している。福祉は日本一ではないか。 ・（地元の間人は気がついていないが）実は地元の食材は相当美味しい。
その他	■生活利便性に対して大きな不満はないが、規模の大きい文化・教育施設や、一定の医療科が不足していることについて言及する回答もあった。 ・規模の大きい文化施設がないことが残念。その点は都会が有利。 ・診察や出産時に米子まで 1 時間かかるのは大変。 ・都市部が便利とは限らないのではないかと。田舎では選択肢が限られていることで、本当に必要なものが把握できる。

5. まとめ

インタビューの結果から、日南町への移住において重要と考えられる事項として、以下のとおり考察する。

- ・日南町は、農林業の特産品や地域医療福祉活動などの、地域がつくりあげた地域資源を有しており、その分野に対するニーズを持った人に対する訴求力が高い。
- ・仕事に関する重要度が高く、また満足度も高い。
- ・日常的な生活利便性に関する重要度は低く、要求するレベルは高くない傾向がある。また大きな不満は見られない。
- ・移住支援への取り組みだけでなく、行政側の積極的な姿勢や意識が高く評価されている。

今後、我が国の地方部は、人口減少と高齢化の進展が予想されるが、日南町のように若年層の移住が際立っている地域もある。インタビューの意見にみられるように、働き方などの生活利便性以外の要素が若年層を惹きつけていることは、今後の地方のあり方の示唆となると考える。

謝辞

本研究の実施にあたっては、鳥取県日南町役場企画課に全面的なご協力を頂いた。また、日南町に移住された 11 名の方にはインタビューに快くご協力頂いた。ここに記し感謝をあらわします。